



陽風

Vol.10
通巻 79号

グループホームで仲間とくらす

「掃除機を買いたい。二人で、一人 5,000 円貯めた。1 万円で買える掃除機はないだろうか?」。グループホーム「颯 (SOO)」かさまに入居後数か月して、ユーザーから声がかかりました。

「颯 (SOO)」かさまは、ほとんどの部屋がフローリングのため、開設時に法人が準備したのは、床掃除用ワイパーのみでした。二人ですぐす中で、今のきれいな部屋の状態を保ち、さらにくらしを整えるために、掃除機が欲しくなったというのです。早速、電気屋さんに中古の掃除機を頼み、ほぼ最新型の物が届きました。掃除のときは、一人は掃除機で、その後ろからもう一人がワイパーで、だそうです。

「4 日に 1 回だったのが、2 日に 1 回お風呂に入るようになった」。

水戸のグループホームに住むユーザーが、照れくさそうに言いました。聞いてみると、

「グループホームに付いているアパートの風呂ではなく、数人で入れる『風 (FOO)』の風呂に誘われ、同居者と一緒に入るようになったから」、と。

実家にいたときは一人で入る風呂がおっくうだったけれど、同居者と一緒であれば、おっくうさが減るのだと話していました。生活支援センター「風 (FOO)」で入浴しているときは、浴室からにぎやかな声が聞こえてきます。

現在、笠間にある「颯 (SOO)」かさまと水戸の「颯 (SOO)」I・II に、5 名がくらししています。間取りは、2~3LDK で、ワンユニットの定員は 2~3 名です。

「仲間とくらす」とは、入居者一人ひとりがそれぞれに違った「力」を出し合い、共同・協働の生活(くらし)を作っていくことなのだ、話を聞いて分かってきました。

食器洗い一つとっても、一人が洗って、もう一人が拭くという方法がいいというペアがいれば、余裕のある者が全て洗う方がしっくりくるというペアもあります。笠間と水戸は、それぞれグループホームに入居して 1 年経つユーザーが 2 人ずついます。いろいろな方法を試して、自分たちに合うやり方を見い出していっている様子です。

「同居者が甘いものが好きなので、自分もついつい食べてしまう」。

笑い話のような、でも生活習慣病を抱える身体のことを考えると深刻な話。

「でも、血糖値が上がらないよう食事の始めに食べる千切りキャベツを、一緒に食べてくれて助かる」。

こんな、共同・協働の生活(くらし)です。

生活支援センター「風 (FOO)」施設長
川島 麻子



グループホーム「颯 (SOO)」I・II 外観